

令和6年度 業務概要



宮崎県油津港湾事務所

目 次

	ページ
1 管内の概況	
1-1 所管区域	1
1-2 自然及び気象	2
1-3 地域の概要	2
2 主な港湾・漁港の沿革	
2-1 油津港	3
2-2 油津漁港	4
2-3 大堂津漁港	5
2-4 目井津漁港	5
2-5 その他の港湾・漁港	6
3 業務の概要	
3-1 港湾事業	7
3-2 漁港事業	8

1 管内の概況

1-1 所管区域

油津港湾事務所は、日南市と串間市の一部に跨がる3港湾・8漁港及び各港湾・漁港区域内の海岸を所管している。



港 湾	
重要港湾	油 津 港
地方港湾	外 浦 港
	大 島 港

漁 港	
第 3 種	油 津 漁 港
	目 井 津 漁 港
第 2 種	大 堂 津 漁 港
第 1 種	鶯 巢 漁 港
	富 土 漁 港
	宮 浦 (鶴 戸) 漁 港
	鶴 戸 漁 港
	夫 婦 浦 漁 港

1-2 自然及び気象

本県の海岸は総延長約 400km で日向灘沿岸と称されており、地形上の特徴から、美しい入り江を有するリアス式海岸を中心とした県北部沿岸と県南部沿岸、砂浜を中心とした単調な海岸線の県中部沿岸の 3 つに区分される。

所管区域の海岸線延長は約 65km で、日南海岸国定公園の中央部にあたり、海岸線の大部分はリアス式海岸であるが、広渡川や細田川の河口付近は砂浜海岸を形成しており、いたるところで砂岩と泥岩が隆起し、波により浸食された「鬼の洗濯板」が見受けられるなど、宮崎県を代表する美しい景観を形成している。

日南市の気象は、日向灘沖合を海流する黒潮の影響を受け、平均気温は約 18.4 度と年間を通じて温暖で、年間降水量は約 2,700mm と全国でも多雨地域に属しており、亜熱帯性の動植物の育成に適し、サンゴ類、亜熱帯魚類及び植物等も数多くみられる。

1-3 地域の概要

平成 21 年 3 月 30 日に、旧日南市・旧北郷町・旧南郷町が合併し、新「日南市」が誕生した。人口が 47,396 人(令和 6 年 4 月 1 日現在、推計人口)で県内 5 番目、面積は 535.49km² (令和 6 年 1 月現在、市区町村別面積調) で県内 6 番目の規模となっている。

旧日南市は、日南海岸国定公園の美しい海岸線、城下町として栄えた飢肥地区、江戸時代に開削された堀川運河と歴史的なまちなみが現存する油津地区、棚田の残る酒谷地区など多様で貴重な資源を生かしたまちづくりが進められている。

旧南郷町は、豊かな自然を生かした漁業や農業を中心として発展してきたが、年々就業者が減少しており、高齢者、後継者問題が顕在化している。このような中、平成 14 年に「道の駅なんごう」、同 16 年に「港の駅めいつ」が完成し、水産業及び観光の振興が進められている。

また、旧北郷町は飢肥杉の生産が盛んで、木材の流通の拠点として知られており、最近では、森林セラピーによる癒し効果を生かした観光振興にも力を入れている。

日南市は、将来像を「どこよりも誇れるまちへ～NICHINAN PRIDE～」として、これらの個性的な地域資源の連携を図りながら、日南に今あるもの、これから創っていくもの、それらを誇りとして、市民一人ひとりが知恵と力を出し合って、どこよりも誇れるまちを創ることとしている。

日南市の産業別就業人口(R2)・産業別総生産額(R2)(単位:人・百万円)

	第 1 次産業	第 2 次産業	第 3 次産業	合計
就業人口	2,767	4,796	16,071	23,634
生産額	12,837	41,024	94,276	148,904

出典 就業人口:令和 2 年国勢調査

生産額:令和 2 年度市町村民経済計算

2 管内の主な港湾・漁港の沿革

2-1 油津港(重要港湾)

油津港は風光明媚な日南海岸に位置する天然の良港で、江戸時代に飢肥藩主により堀川運河が開かれ、阪神、関門、朝鮮方面への木材の搬出が活発となるとともに、昭和13年には後背地の吾田地区で製紙工場が操業を開始し、昭和27年に重要港湾に指定された。

昭和30年に港湾計画を策定後、3度の計画改訂を経て、防波堤や係留施設などの整備を順次進めて来ており、平成10年の東埠頭供用開始後は、平成11年に東京・大阪を結ぶ定期RORO航路が、平成13年に韓国の釜山港との間に国際定期コンテナ航路(平成29年10月より休止)が、平成21年に神戸港との間に国内コンテナ航路が開設され、県南地域の物流の拠点となっている。令和5年の港湾取扱貨物量(速報値)は、外貿604千トン、内貿438千トン、合計1,042千トンである。



●油津港東地区埠頭(平成10年9月供用開始)

係留施設：水深10m(185m×1B)

水深12m(240m×1B)

埠頭用地：14.0ha

荷役施設：タイヤマウント式ジブクレーン 38t 吊

上 屋：2棟

また、平成27年に16万トン級クルーズ船が、平成29年12月には、22万トン級のクルーズ船が寄港可能となったことなどから、近年では多くのクルーズ船が寄港しており、県内のクルーズ受入拠点としての役割も果たしている。

平成30年5月には、県内で2箇所目、全国で109番目になる「みなとオアシス油津」が賑わい拠点として登録された。

さらに、油津港には、飢肥藩が飢肥杉の運搬を効率的に行うために開削した「堀川運河」があり、日南市を代表する歴史施設として保存・再生と共に、市民の憩いの場としての広場等の整備を行ってきた。運河の規模・美しさから日本三大運河の一つとされている。



今後の課題としては、東埠頭港湾施設の早期整備、老朽化した施設の長寿命化、手狭になっている既設埠頭の集約・再配置による効率・利便性の向上、港内に多数係留されているプレジャーボートの対策等がある。



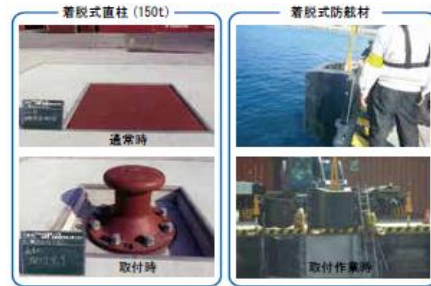
▲東地区外貿多目的公共埠頭



▲堀川夢ひろば



▲コンテナ船荷役状況



▲係留施設の画期的改良
(平成30年度日本港湾協会技術賞 受賞)

2-2 油津漁港(3種漁港)

油津漁港で営まれている漁業は、沿岸マグロ延縄漁業が中心で、水揚げの7割以上を占めている。また、一本釣りによるカツオや引き網によるシイラ漁も盛んである。

漁港の指定は大正6年(他に6漁港と共に全国初、九州では唯一の指定)と古く、昭和初期から第二次世界大戦前にかけては、ブリやマグロの水揚げが急増し、特にマグロは東洋一の水揚げを誇った。また、昭和26年度には第3種漁港の指定を受け、現在まで鋭意整備を進めてきた。その結果、航路の安全性や港内静穏度は向上したが、主要陸揚げ岸壁では強風時に静穏度が保てないことから、平成19~24年にかけて大型の防風柵の設置を行った。

さらに、明治から昭和初期にかけて建設された登録文化財である堀川運河護岸の修復と緑地広場の整備を行った。当該施設は、周辺の歴史的建造物等と一体となり、地域活性化や地域振興に貢献している。

なお、堀川運河は、平成18年2月に水産庁の「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選」に『油津の港物語』として、「杉村金物本店主家・倉庫」「チョロ舟」とともに、選ばれている。

今後の課題としては、大規模災害への対応として岸壁の耐震性、老朽化した施設の長寿命化、港内に多数係留されているプレジャーボートの対策等がある。



2-3 大堂津漁港(2種漁港)

大堂津漁港は、日本有数の近海カツオ1本釣り漁の基地となっている。

昭和26年度に第2種漁港の指定を受け、岸壁や防波堤の整備を進めてきた。平成23年度には大型船に対応するため、-4m岸壁の-5m増深が完了している。

今後の課題としては、大規模災害への対応として岸壁の耐震性や防波堤の耐津波性の向上、老朽化した施設の長寿命化、港内に多数係留されているプレジャーボートの対策等がある。



2-4 目井津漁港(3種漁港)

目井津漁港は県南の拠点漁港となっており、カツオ一本釣りや、マグロ延縄漁等遠洋漁業の基地となっている。また、定置網によるアジ類の沿岸漁業も盛んである。令和3年2月に「かつお一本釣り漁業」が日本農業遺産に認定された。

水産業の振興を図るため、水産物の直販施設や海鮮料理提供施設等が設けられ、都市部との交流や漁港の活性化に寄与している。また、大島とを結ぶ離島航路があり、交通手段の確保港としての役割も持っている。

漁港の整備は古くから行われており、昭和初期には一部の防波堤が完成している。

また、昭和27年度には第3種漁港の指定を受け、以来、岸壁、防波堤、防風柵等の整備を進めて来た。平成29年度には、大規模災害に対応した、防波堤の粘り強い構造への改良が完了している。

今後の課題としては、大規模災害への対応として岸壁の耐震性の向上、老朽化した施設の長寿命化、港内に多数係留されているプレジャーボートの対策等がある。



2-5 その他の港湾・漁港



3 油津港湾事務所の業務概要

3-1 港湾事業

3-1-1 令和6年度予算額(補助事業)

港湾名	事業名	事業費(千円)	概要
油津	改修(重要)	300,000	岸壁(-12.0m)改良
外浦	港整備交付金	141,000	浮棧橋
	防災・安全社会資本整備交付金 (海岸)	20,000	防波堤 設計
	合計	461,000	

3-1-2 事業内容

●油津港

【改修(重要)事業】

RORO船の大型化に対応するため岸壁を延伸する。

※本年度実施内容

岸壁(-12,0m)改良(工事)



●外浦港

【港整備交付金】

港湾施設の老朽化や漁業者の利用環境改善のため補修等を実施する。

※本年度実施内容

浮棧橋(工事)

【防災・安全社会資本整備交付金(海岸)】

数十年から百数年の頻度で発生する津波による被害の軽減を図るため防波堤や防潮堤の整備を行う。

※本年度実施内容

防波堤(設計)



3-2 漁港事業

3-2-1 令和6年度予算額(補助事業)

漁港名	事業名	事業費(千円)	概要
大堂津	漁港施設機能強化事業	45,000	- 5.0m 岸壁改良
目井津	漁港施設機能強化事業	31,000	- 5.0m 岸壁改良
合 計		76,000	

3-2-2 事業内容



● 大堂津漁港

【漁港施設機能強化事業】

地震・津波対策として、発災後も水揚げが行えるよう - 5.0m 岸壁の改良を行う。

※本年度実施内容 - 5.0m 岸壁改良工事



● 目井津漁港

【漁港施設機能強化事業】

地震・津波対策として、発災後も水揚げが行えるよう - 5.0m 岸壁の改良を行う。

※本年度実施内容 - 5.0m 岸壁改良工事



宮崎県油津港湾事務所

〒887-0001 日南市油津4丁目12番16号

TEL. 0987-23-3125

FAX. 0987-24-0482

E-mail: aburatsu-kowan@pref.miyazaki.lg.jp